

## (12) さやえんどう

### ア 各病害虫の防除

うどんこ病

さび病

苗立枯病

灰色かび病

つる枯細菌病(先端黄白化症)

モザイク病

アブラムシ類

ウラナミシジミ

ハスモンヨトウ

ナモグリバエ (エンドウハモグリバエ)

ネキリムシ類

ハダニ類

## ア 各病害虫の防除

### 【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

### うどんこ病

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 微生物殺菌剤は発病前から予防的に処理する。
- 2 気門封鎖剤を散布する。
- 3 発病ごく初期から薬剤を施用（散布）する。

### さび病

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病を認めたら、薬剤を施用（散布）する。

### 苗立枯病

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 土壌消毒する([共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照)。
- 2 薬剤を施用（散布）する。

### 灰色かび病

---

(判断、防除に関する措置)

- 1 施設栽培に多い。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病を認めたら薬剤を施用（散布）する。

### つる枯細菌病(先端黄白化症)

---

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病前から薬剤を施用（散布）する。

### モザイク病

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 無病株から採った種子を使う。
- 2 苗床には発芽直前から白寒冷紗をかけ、有翅(し)アブラムシの飛来を防ぐ。
- 3 本ぼでは、シルバーポリマルチを使用する。
- 4 発病株を速やかに抜き去る。

(薬剤防除)

- 1 アブラムシによって媒介されるため、本項の[アブラムシ類の防除](#)に基づき防除を行う。

### アブラムシ類

---

(耕種的・物理的防除)

- 1 育苗時からアブラムシ類の発生に注意する。黄色粘着テープを施設の出入口や開口部の近く、若しくは苗の近くにつるし、有翅(し)成虫が飛来していないか確認する。
- 2 近紫外線除去フィルムは成虫の飛来を減らす効果があるので、これらのフィルムを施設の外張りやトンネルに使用する。
- 3 施設では、側窓や天窓などの開口部に寒冷紗や防虫ネット等を張り、成虫の飛来を防ぐ。
- 4 マルチをする場合は、シルバーポリマルチなど忌避効果のあるものを使用する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬を予防的に散布する。

※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農](#)

[薬の影響の目安](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

※アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。

- 2 気門封鎖剤を散布する。
- 3 抵抗性の回避のため、異なった群から薬剤を選びローテーション散布を行う。

## ウラナミシジミ

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生を認めたら、薬剤を施用（散布）する。

## ハスモンヨトウ

・[共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 交信かく乱剤を活用した防除を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 2 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 4 生物農薬を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。
- 6 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 生物農薬を散布する。
- 3 若齢幼虫のうちに、薬剤を施用（散布）する。

## ナモグリバエ（エンドウハモグリバエ）

・[共通防除の章のハモグリバエ類の防除の項](#)を参照する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬を予防的に散布する。
- 2 発生状況に応じ、薬剤を7～10日おきに2～3回施用（散布）する。

## ネキリムシ類

・[共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 被害株元の幼虫を捕殺する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。

## ハダニ類

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬は予防的に散布する。

※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

※ハダニ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要で

ある。

- 2 気門封鎖剤を散布する。
- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。